

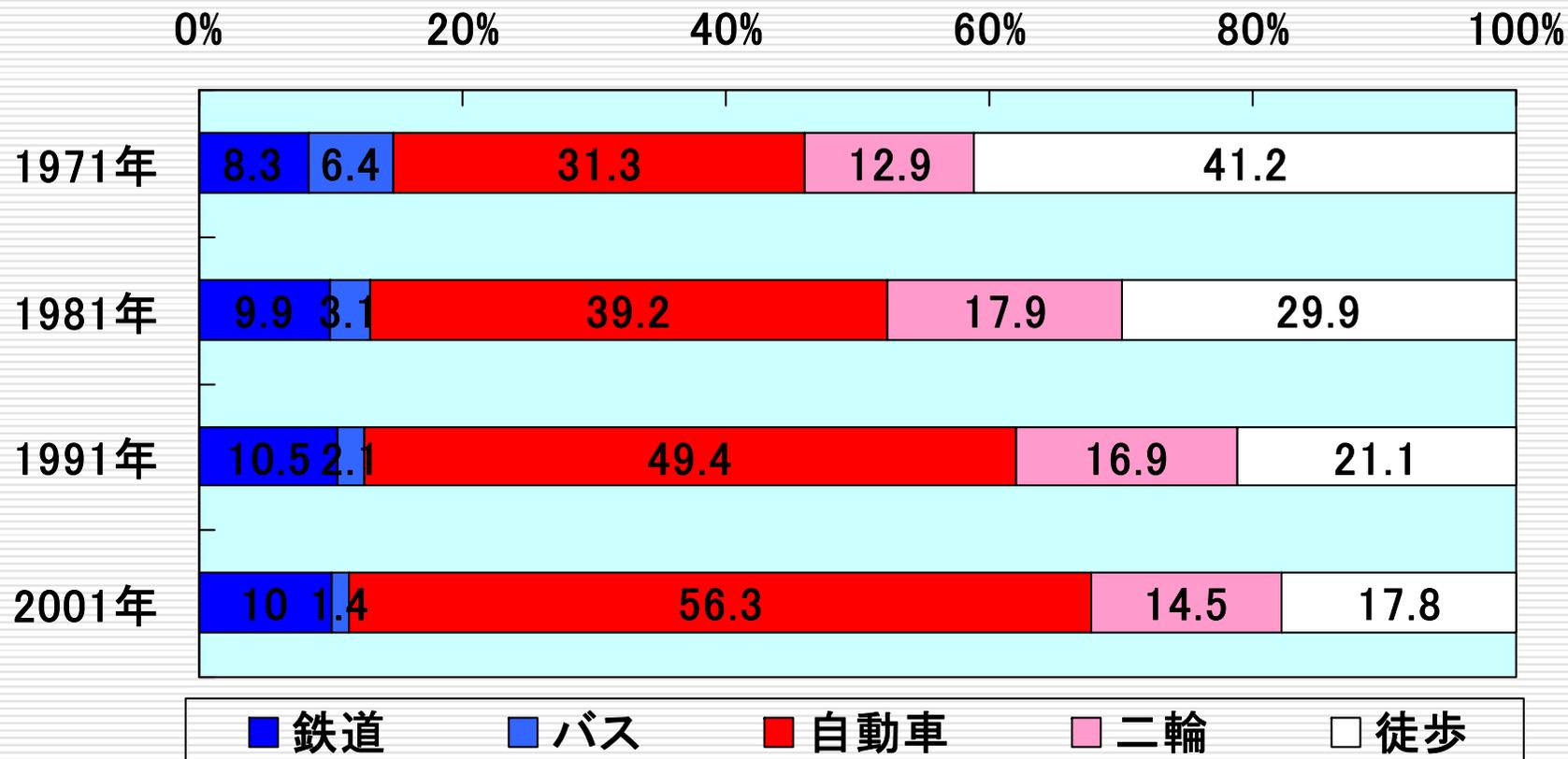
エコモビ活動のはじめ方・育て方

大阪大学大学院工学研究科

准教授 松村 暢彦

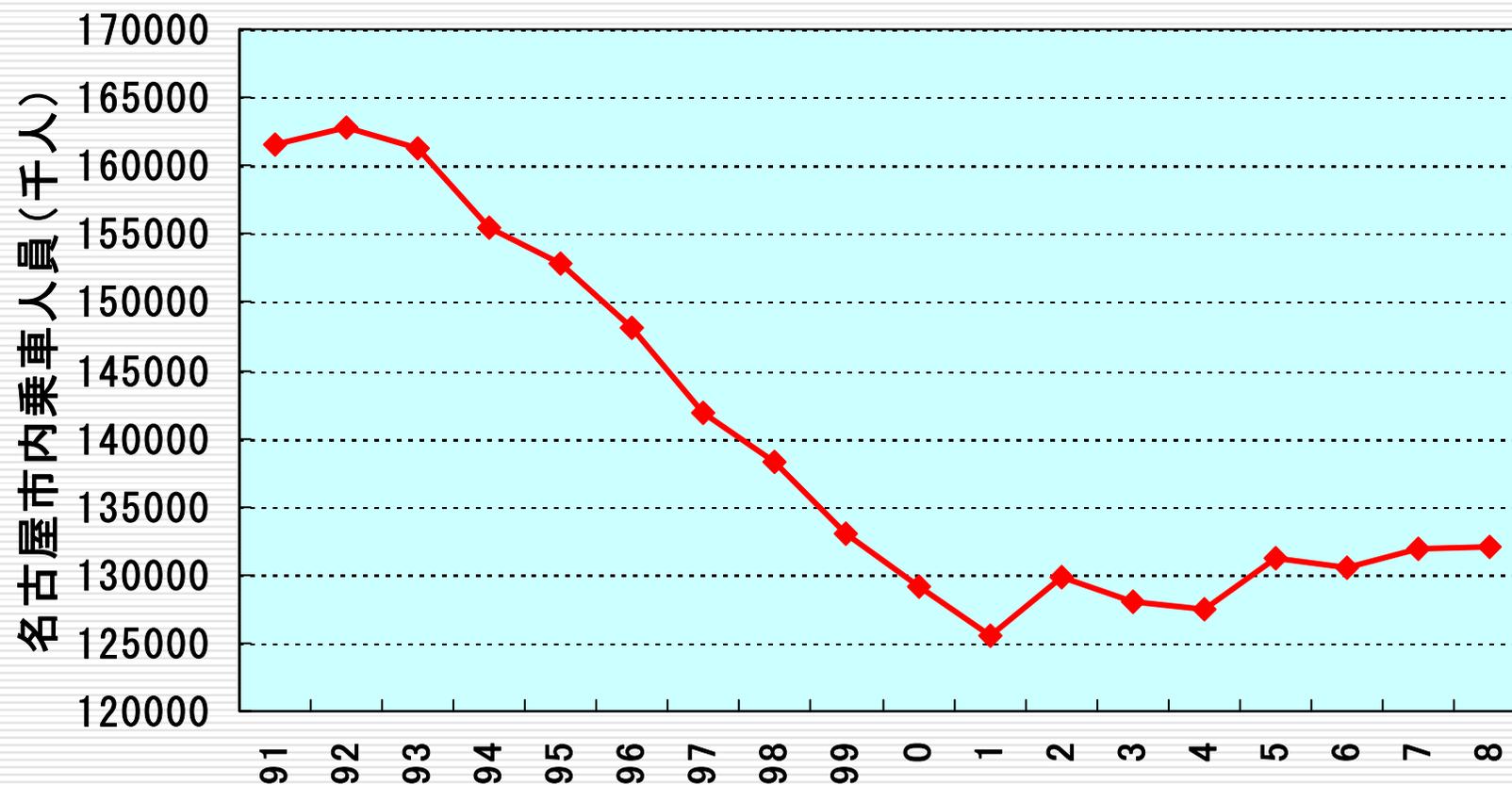
クルマの利用はどのくらい増えている？

代表交通手段構成比(愛知県:自由)



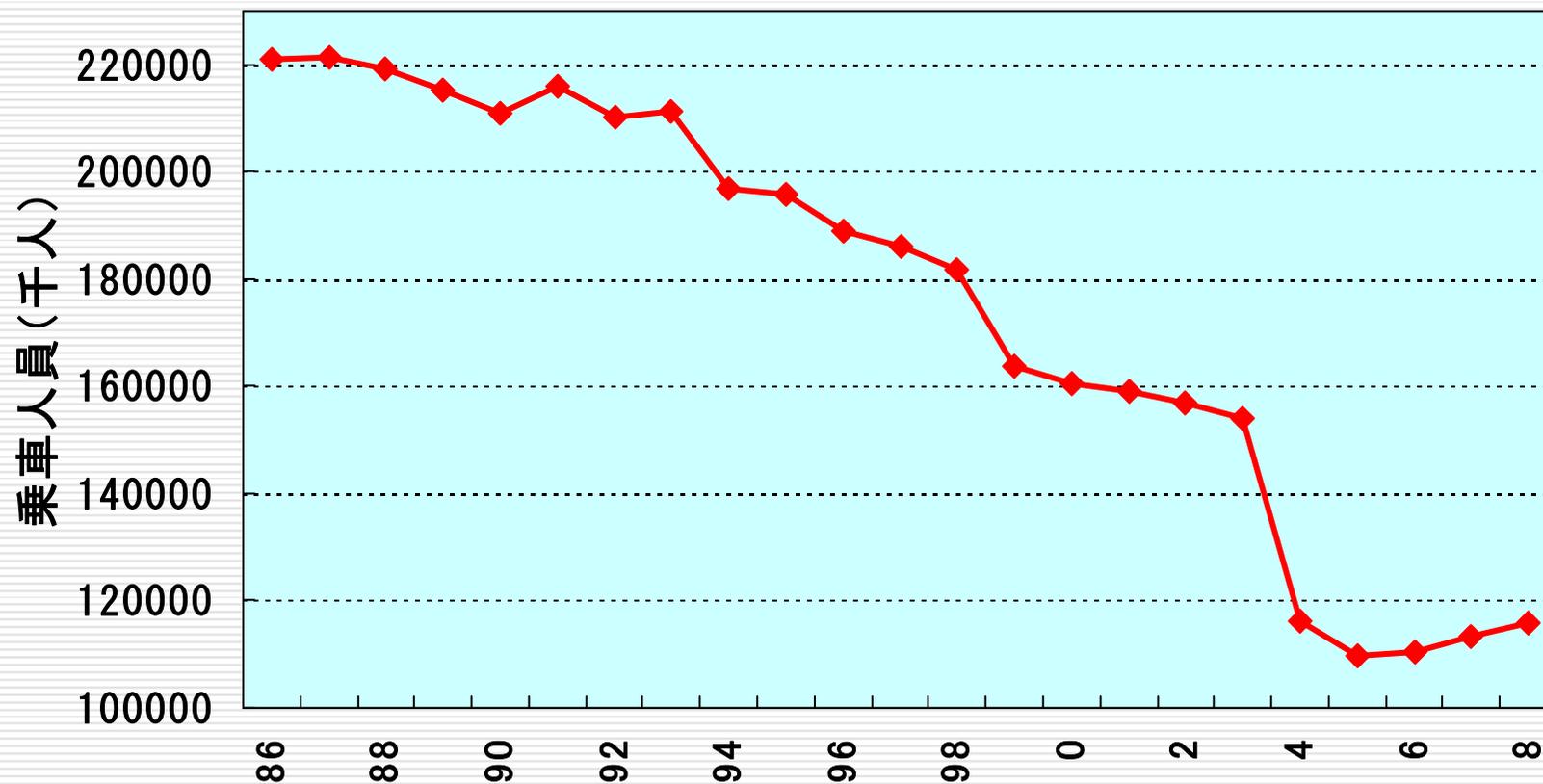
中京都市圏総合都市交通計画協議会「人の動きからみる中京都市圏のいま」

鉄道利用者は？(名古屋鉄道:名古屋市内乗車人員)



名古屋市統計年鑑より作成

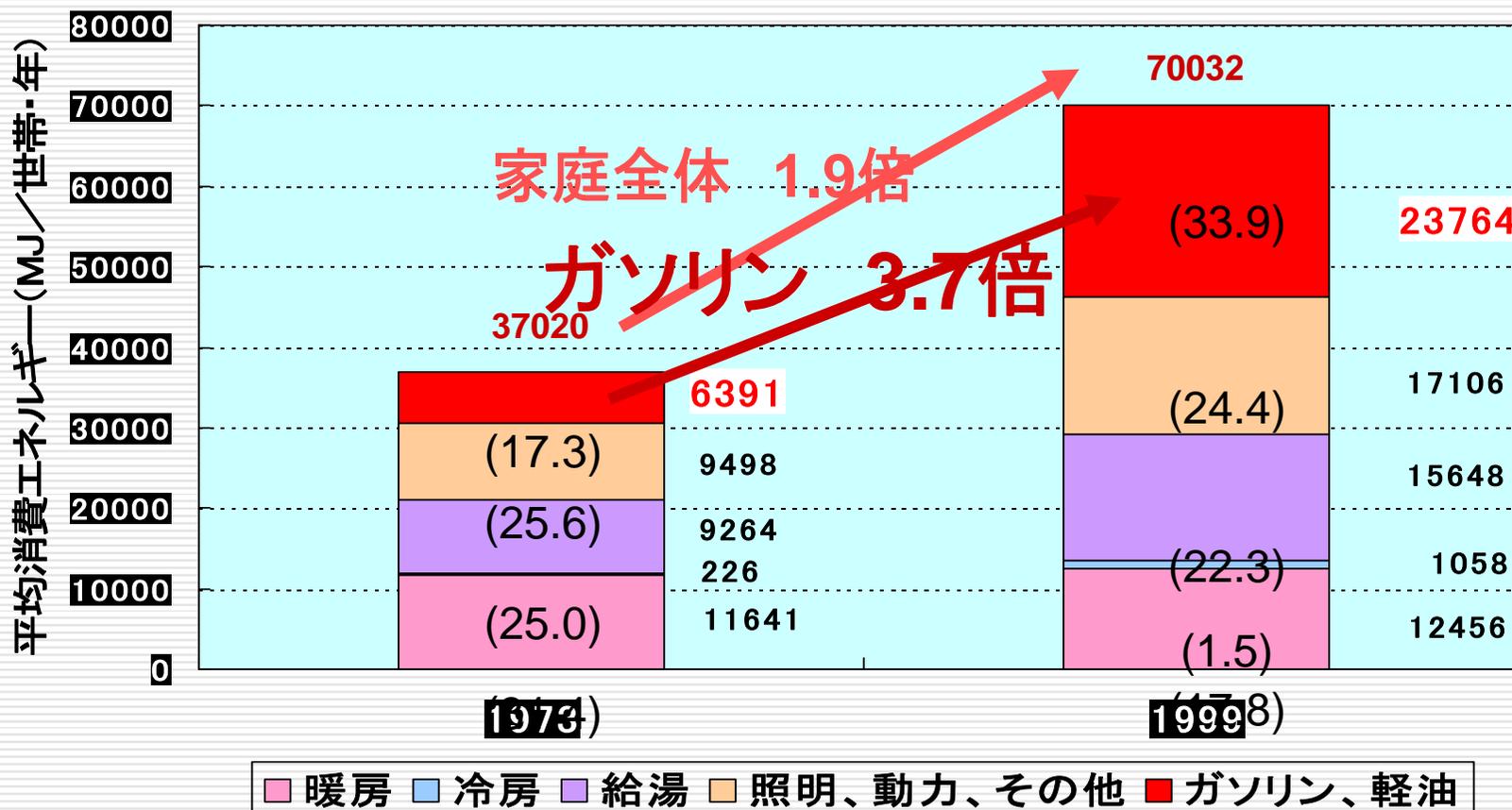
バス利用者は？（名古屋市営バス）



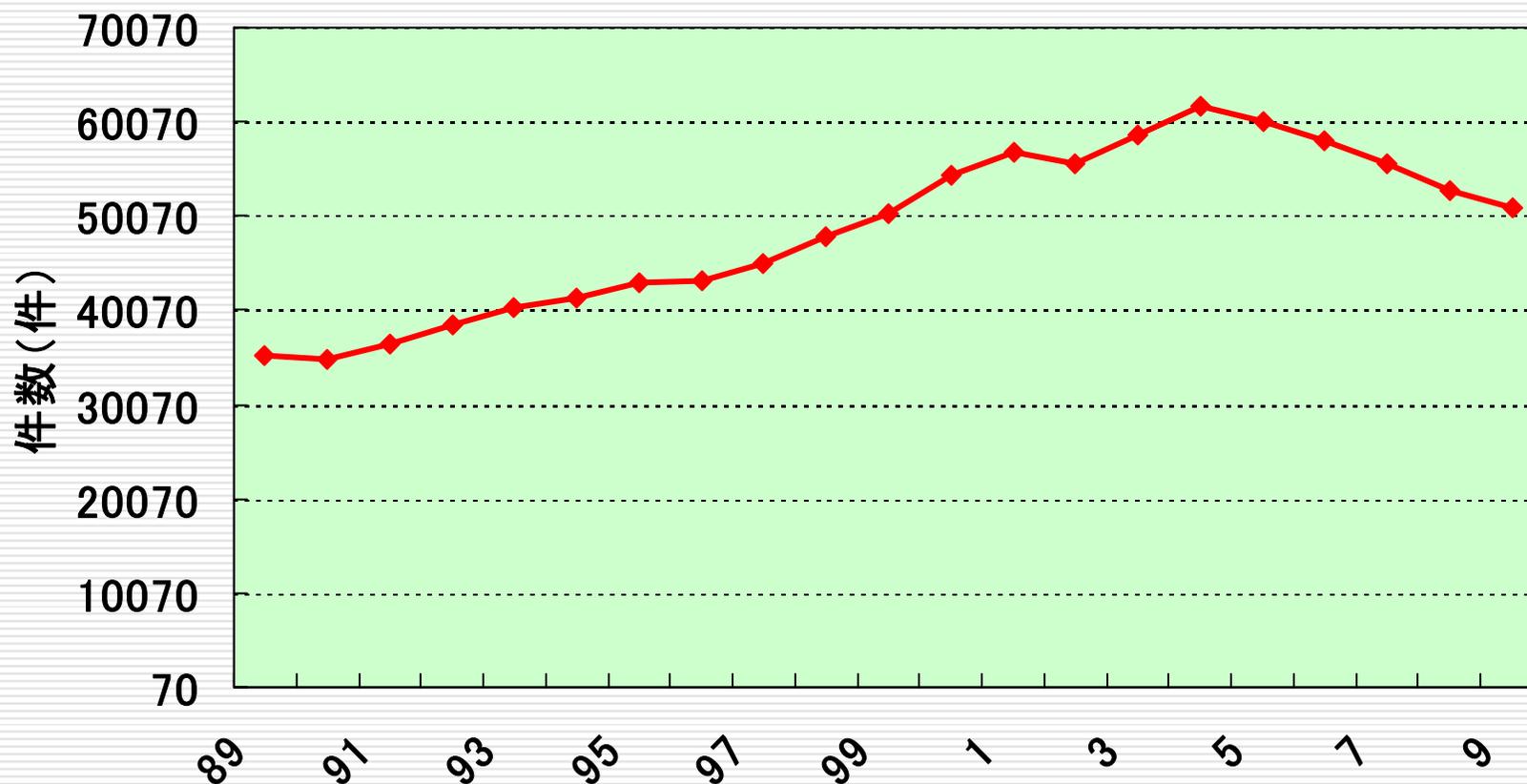
名古屋市統計年鑑より作成

私たちの生活の環境負荷は？

()は構成比(%)

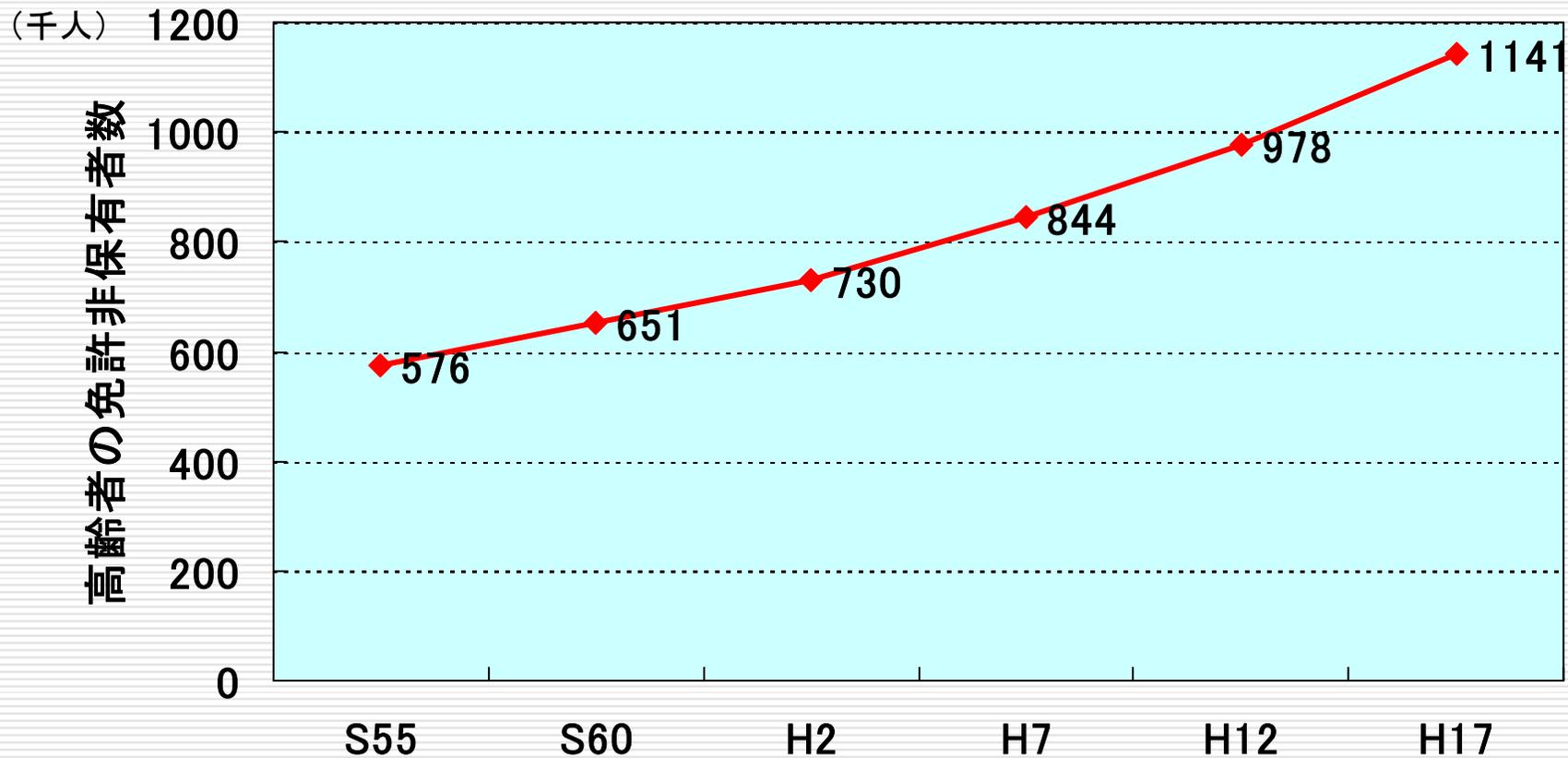


事故死者数は減っているけど、事故件数は？



愛知県警察本部交通部：愛知県の交通事故発生状況より作成

自分でクルマに乗れないお年寄りの数は？



社会的ジレンマとは

- 協力行動(徒歩、公共交通に乗る)と非協力行動(車に乗る)を選択できる
 - 短期的にみると自分にとってメリットが大きい(車を使うと便利)が、長期的に見ると自分を含めた社会がより大きなデメリットを被ってしまう(環境問題や交通事故)
-

はやくつこうと思う



社会的ジレンマ

クルマを使う

電車・バスを使わなくなる

道路がクルマで一杯になる

行財政の圧迫

渋滞

電車・バスのサービスレベルが下がる

事故

地域環境問題

悪くなる

サービスレベルの低下

移動の不公平

中心市街地の衰退
郊外の画一化

健康

地球環境問題

社会的ジレンマを解決する3つの方法

- 技術を開発する
 - 燃料電池車の開発
 - 損得の構造をかえる(構造的アプローチ)
 - バスの運行頻度を上げる
 - 違法駐車の前金を値上げする
 - ロードプライシング
 - コンパクトシティ
 - 人の心にはたらきかける(心理的アプローチ)
 - モビリティ・マネジメント
-

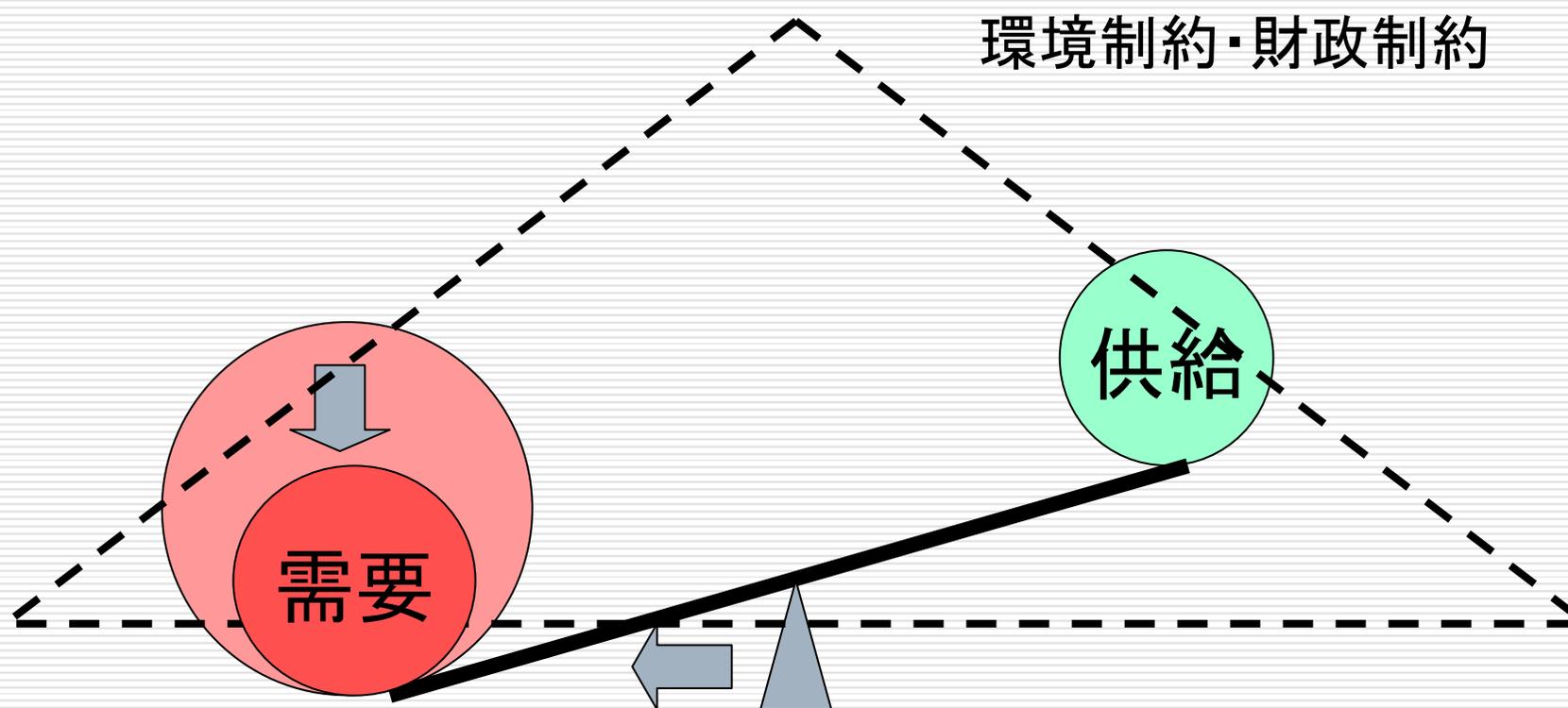
	構造的アプローチ	心理的アプローチ
行政主導のガバナンス(ガバメント)	TDM(RPなど) LRT	モビリティ・マネジメント(行政主体)
多様な主体の連携によるガバナンス(ガバナンス)	身の丈にあったバスの運行	モビリティ・マネジメント(連携型)

社会的ジレンマを乗り越える 交通政策

ガバメントー構造的アプローチ型

TDM、LRT

交通需要マネジメント



社会的ジレンマを乗り越える 交通政策

ガバナンスー構造的アプローチ型

地域でつくる身の丈にあった公共交通

事例①： 地域住民で作出したみんなのバス

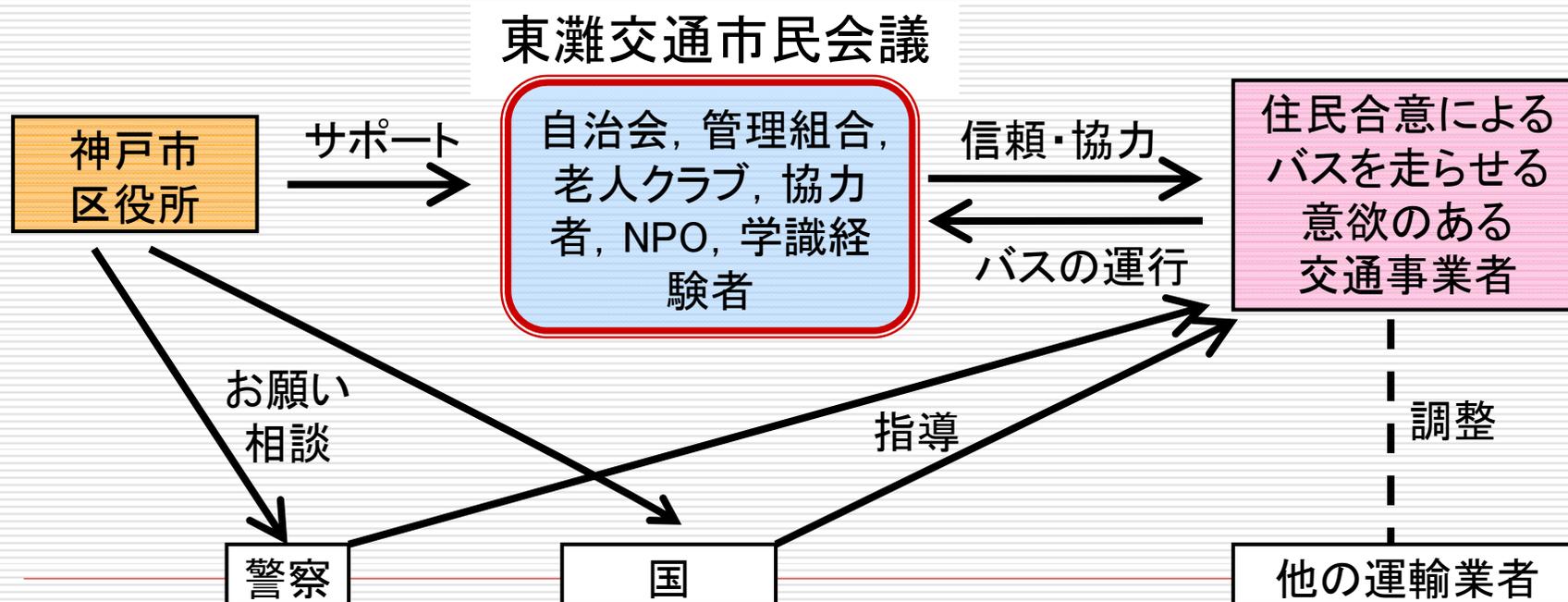
- 2005年1月：住吉台くるくるバス 運行開始
- 住民がバス事業者や行政に働きかけることで、運行が開始された



参考資料：森栗 茂一：くるくるバスがもたらした持続可能なオールドニュータウン～住吉台くるくるバス開通のその後～、交通工学、Vol.42、No.1、2007

事例①: 本格運行に至った経緯

- NPOによる試行運行(最初1週間:無料、1ヶ月間:有料運行)
 - 予想以上に大勢の住民がバスを利用
- 東灘交通市民会議



これらの事例がうまくいっているのはなぜか？

- 住民の手づくりの公共交通
 - バスを使う住民が、自分達がどのようなサービスが必要としているのか自分達で考えて、考えた意見を計画に反映
 - 地域の問題をお互いで共有できている
 - 足りない部分は、お互いに少しずつ負担をしあって支えている
-

社会的ジレンマを乗り越える 交通政策

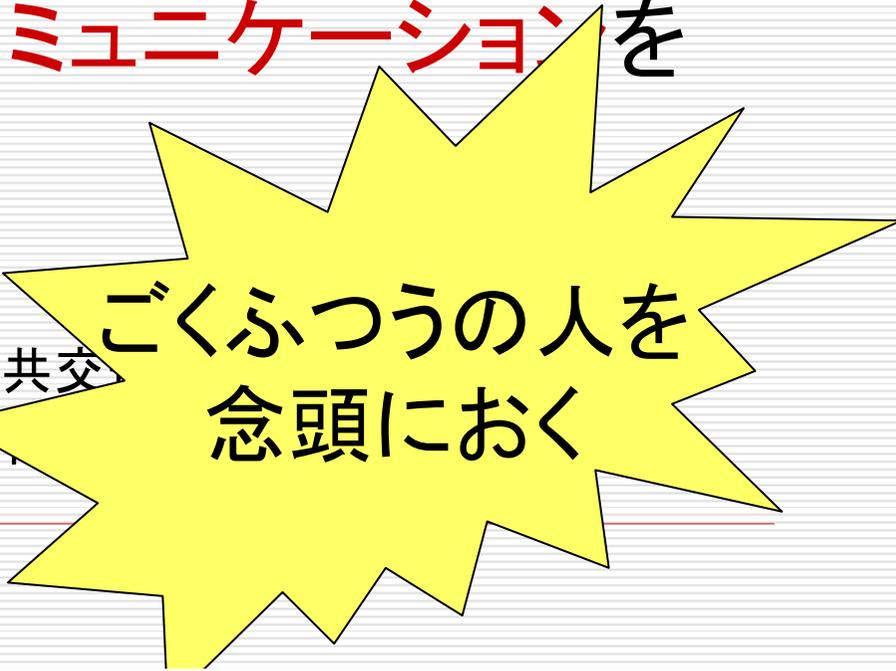
ガバメントー心理的アプローチ型

モビリティ・マネジメント(行政主導)

モビリティ・マネジメントとは

□ **一人一人**のモビリティ(移動)が, 社会にも個人にも望ましい方向に**自発的**に変化することを促す, **コミュニケーション**を中心とした交通施策

- * 過度な自動車利用から適切な公共交通
- * 危険な交通行動から安全な交通



ごくふつうの人を
念頭におく

モビリティ・マネジメントの実施場面

- 住民を対象にしたモビリティ・マネジメント
 - 居住者向けのモビリティ・マネジメント
 - 転入者向けのモビリティ・マネジメント(事例1)
 - ワークショップを使ったモビリティ・マネジメント
 - 職場でのモビリティ・マネジメント(事例2)
 - Webを使ったモビリティ・マネジメント
 - 紙によるモビリティ・マネジメント
 - 学校教育でのモビリティ・マネジメント(事例3)
-

事例1：転入者を対象にしたMM

既存事例の紹介

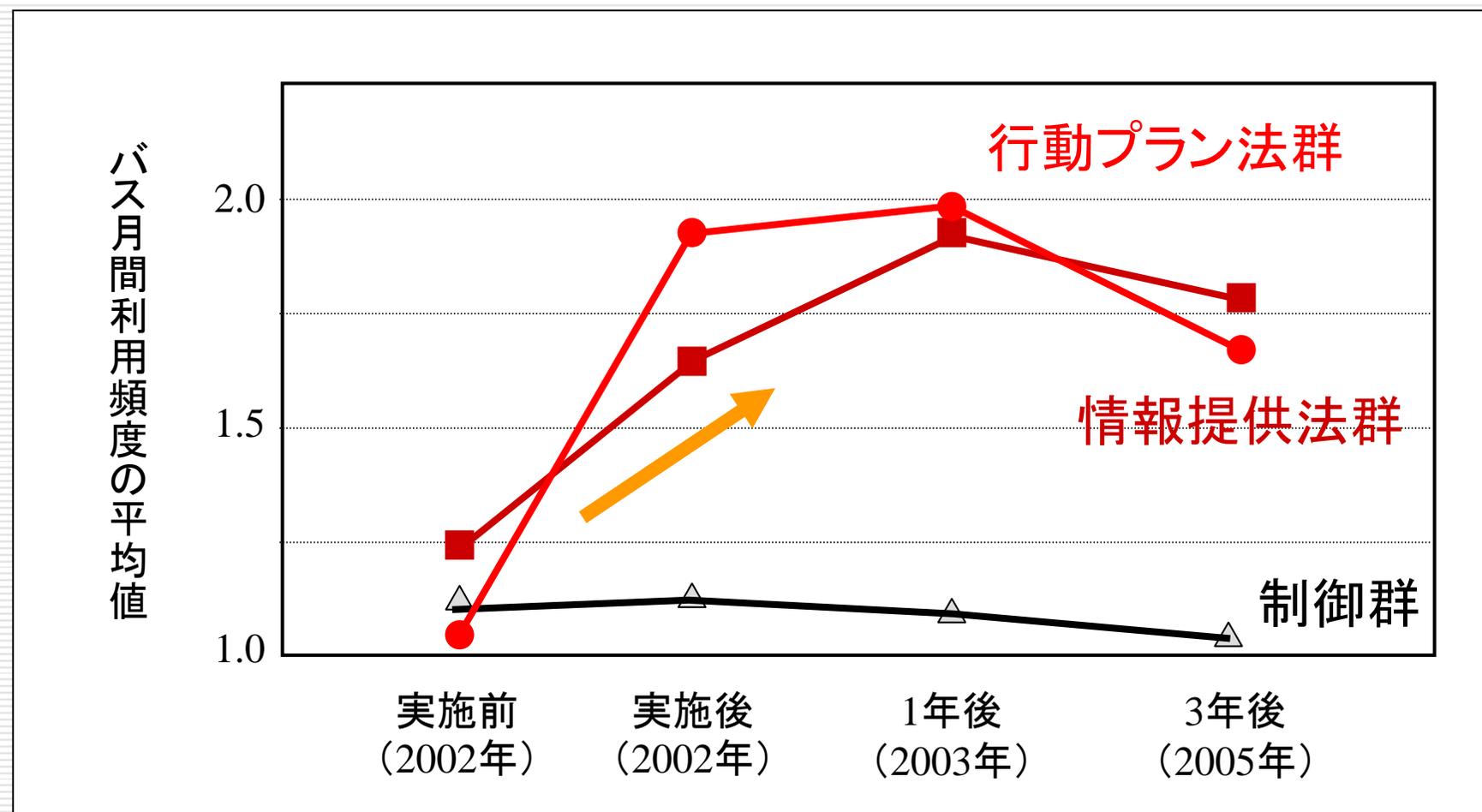
- 対象・・・吹田市住民、転入者(523名)

 - 住民アンケートを実施
 - 転入者には転入届窓口にてアンケートを配布

 - 公共交通に関する情報を提供
 - 情報提供法群(情報提供法のみ)
 - 行動プラン法群(情報提供法＋行動プラン法)
 - 制御群(なにも情報提供をしない)
-

バス利用頻度の変化

■転入者■



事例2. エコ通勤

エコ通勤とは

□クルマ通勤の問題を中心にみすえながら、
社会や企業、従業員のそれぞれにとって、より
望ましい「職場交通」のあり方を模索していく、
事業所主体の持続的な取り組み

可能な範囲で
少しずつ

エコ通勤のイメージ

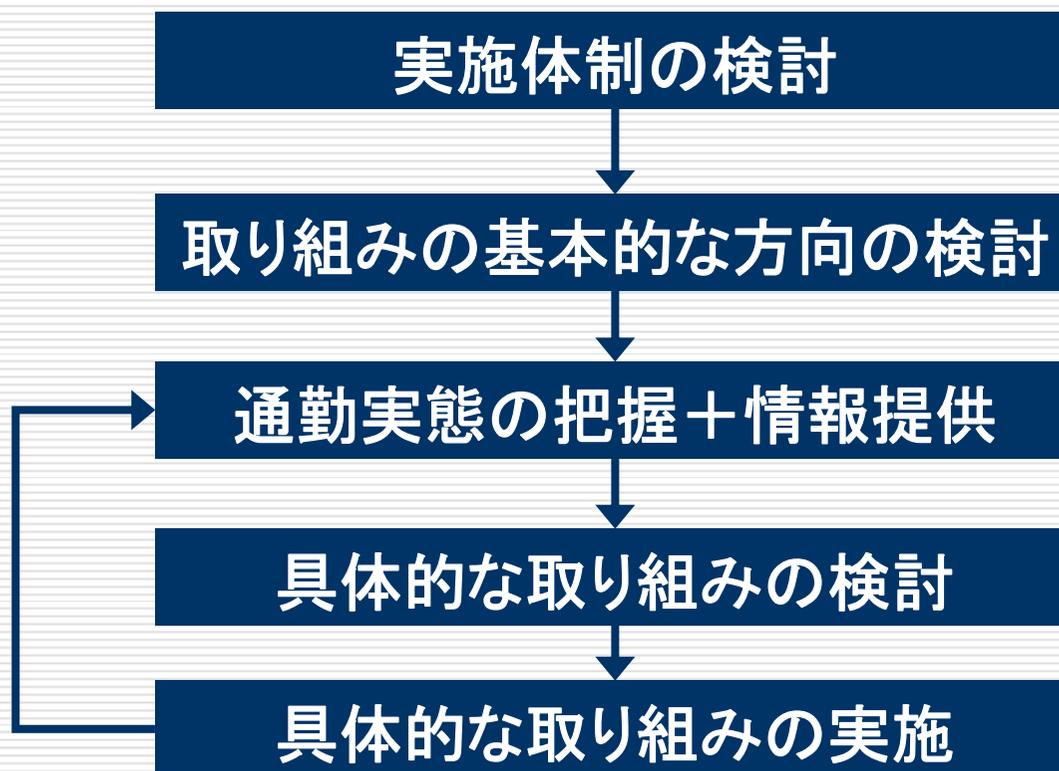
- 交通手段の転換
 - クルマから公共交通へ
 - クルマから通勤バスへ
 - クルマから自転車、徒歩へ

- 時差出勤
 - ピーク時からオフピーク時に

- 相乗り
 - 一人から二人に

事業所から従業員に
できる人から
可能な範囲で
少しずつ
変わってもらうように働きかける

エコ通勤の手順



個人的なプログラム(すぐにできそうな取り組み)

□ 通勤実態調査

- 通勤手段の調査で各自に通勤交通を振り返ってもらう

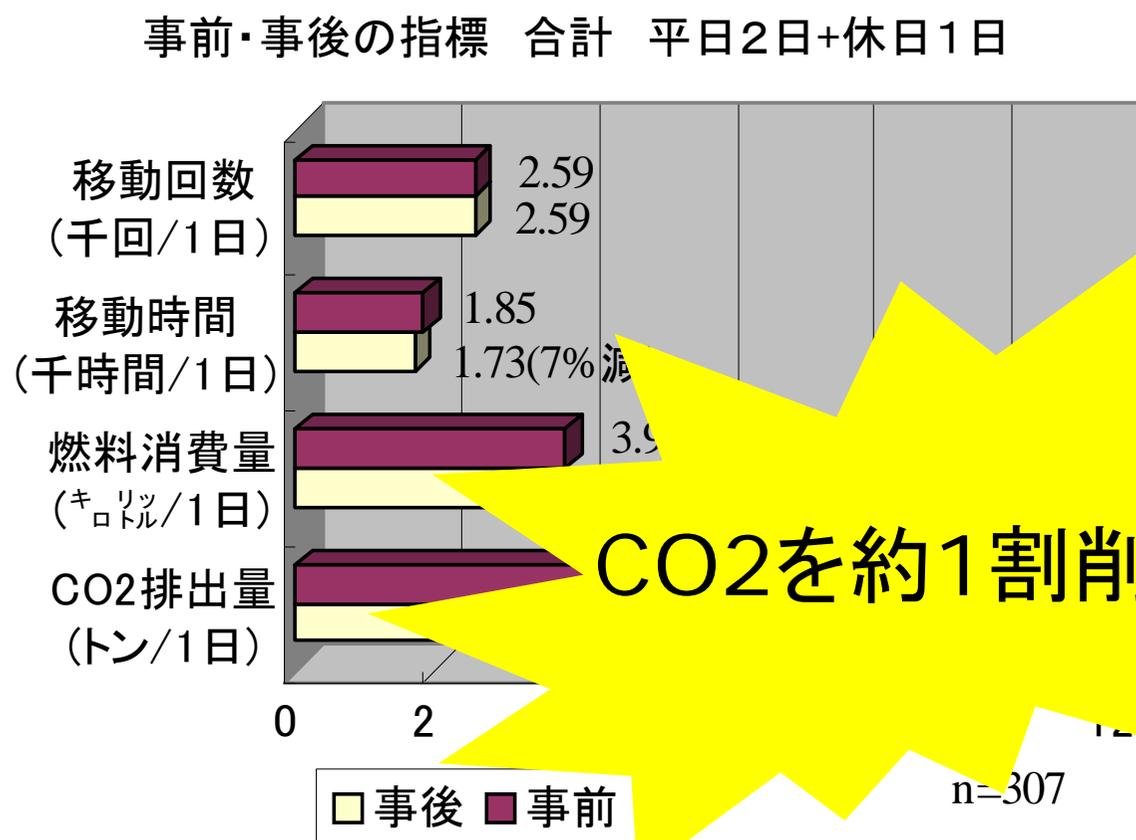
□ 従業員への情報提供

- 公共交通で通勤する際のメリットやクルマのデメリット情報、バス、鉄道の時刻表、路線図などを提供する

□ 従業員への呼びかけ

- 従業員に通勤交通手段の転換などを呼びかける
-

事例) 大阪府下事業所(14社、500名)



組織的なプログラム(抜本的な取り組み)

- 通勤制度・通勤補助の見直し
 - 通勤バスの導入
 - 自転車通勤の奨励
 - 相乗り制度の導入
-

まとめ

□ エコ通勤とは

- **クルマ通勤**の問題を中心にみすえながら、社会や企業、従業員のそれぞれにとって、より望ましい「職場交通」のあり方を模索していく、**事業所主体の持続的**な取り組み

□ エコ通勤は**PDCA**のサイクルを進める

□ エコ通勤は先進的な地域で始まっている

事例3. 学校教育でのMM

兵庫県川西市内での学校教育の支援例

- 平成18年度 東谷小学校5年生
 - 交通すごろく
 - 平成19年度 東谷小学校6年生
 - 川西再発見(地域交通を生かした環境教育)
 - 平成20年度 牧の台小学校6年生
 - わたしたちのまち・大和
-

単元 わたしたちのまち・大和

□ 単元目標

- 自分たちが生活している大和地区について知り、さらに愛着を持つ。大和地区の現状を知った上で、よりよいまちにするためにはどうすべきかを考える。

□ 評価

- 自分が生活している大和地区に関心を持ち、進んで調べようとする。
 - まちには、まちをよりよくしたいと思う人たちが様々な仕事や活動を行っていることに気づく。
 - 自分の考えを他者にわかりやすく伝え、お互いの思いを大切にしながら、一つにまとめあげる。
 - 自分たちが生活している大和地区について、環境、安全、福祉、快適などの観点から、よりよいまちについて総合的に考え、今後の生活の中で実行しようとする。
-

単元 わたしたちのまち・大和

- 対象
 - 小学校6年生 2クラス(69名)
 - クラス
 - 総合的な学習の時間
 - 学習支援
 - 大和団地や能勢電鉄の歴史の語り(能勢電鉄 田中課長)
 - 大和団地の歴史や自治会の活動紹介(大和自治会 八木下会長)
 - 交通すごろくの出前授業、「ちいさいおうち」を使ったまとめの出前授業(大阪大学 松村准教授)
 - 発表会のコメント(大和自治会 八木下会長、能勢電鉄 田中課長、兵庫県阪神北県民局 山内主査、大阪大学 松村准教授)
-

単元構造

大和地区についてくわしく知ろう

- ①気になることや調べたいことを出し合う。
- ②大和団地の成り立ちや特徴について話を聞く。
- ③調べたいことをもとにグループを作り、調べ学習を進める。
- ④調べたことを発表し合う。

まちを考える視点を学ぼう

- ①交通すごろくを使ってまちを考える視点(環境、快適、福祉、安全など)を学ぶ。

これからの大和地区について考えよう

- ①住みよいまちにするには、どんなことができるかを考える。

大和団地をよりよくするために働きかけよう

- ①自分たちが調べたことをまとめて、地域の人たちに伝える。
-

評価

- 地域に根ざし、公共的な存在である鉄道、バスは、社会性を学ぶに適した教材。
 - 地元、交通事業者、行政機関、大学は、子どもたちの成果や提案に対して社会的承認を与えることができる教育的存在。
 - 地元、交通事業者、行政機関が協力し、子ども達の成果を地域住民が目につれるところに張り出せた波及効果。
-

社会的ジレンマを乗り越える 交通政策

ガバナンスー心理的アプローチ型

モビリティ・マネジメント(連携型)

上下分離型バスタウンマップ

行政・交通事業者

クリアファイルなど透過素材で作成

公共で収集し公開すべき情報：プロダクト知（バス交通、公園など）

NPO

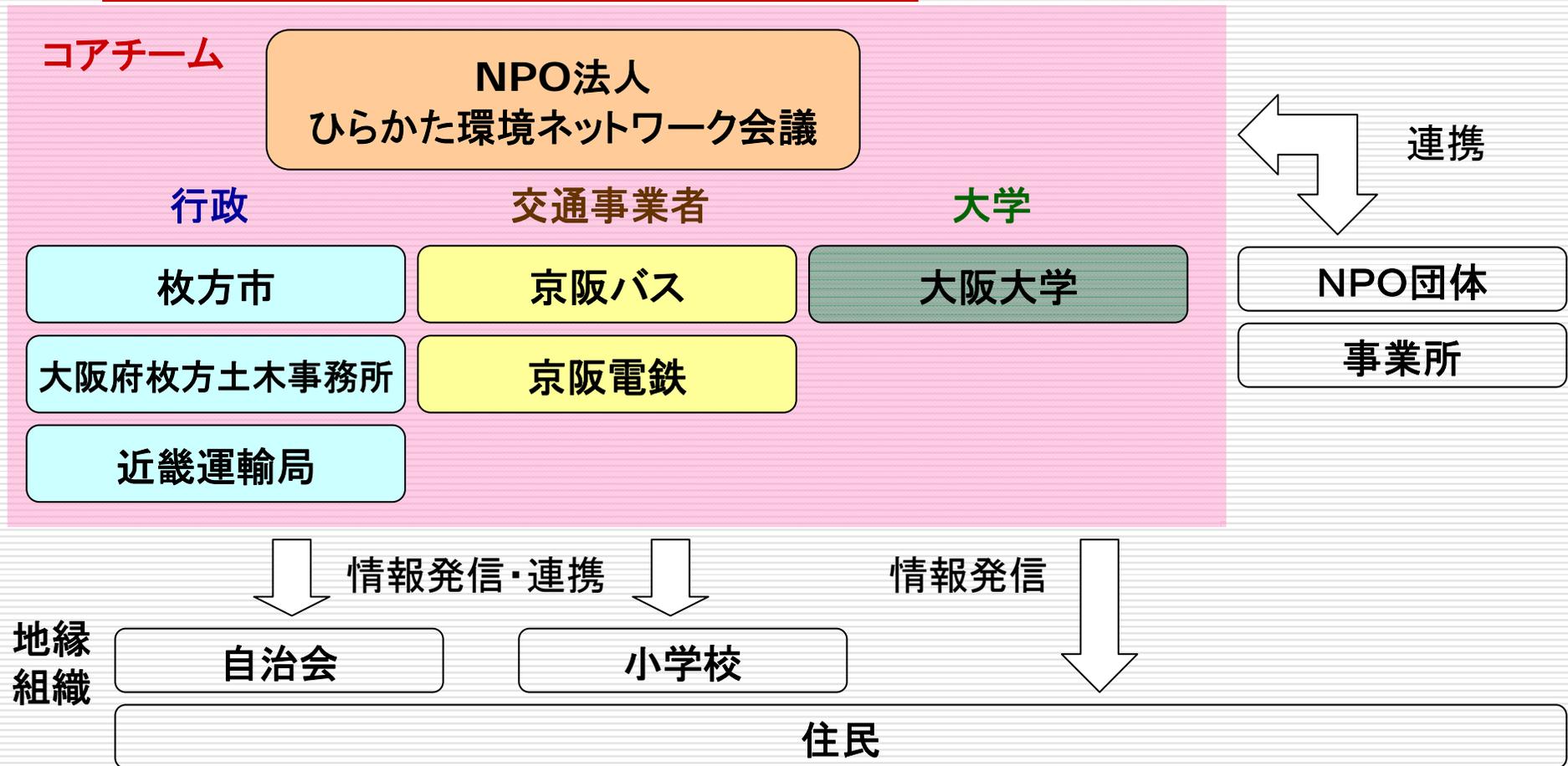
多数の参加をえて作成し公開すべき情報（店舗など）：公共的プロダクト知



既存事例の紹介

- 日時:平成18年3月26日(日)
 - 場所:大阪府枚方市くずは・京都府八幡市男山地区
 - 主催:NPO法人 ひらかた環境ネットワーク会議
 - 内容:バスのってスタンプラリー
 - 参加者:186名
 - スケジュール
 - 10:00 「まち」と「暮らし」と「バス」の話
 - 10:20 スタンプラリーの説明
 - 10:30 スタンプラリー開始
 - 15:30 集合・ビンゴゲーム
 - 16:00 終了
-

プロジェクトチーム (2005年～)



本事例の特徴

- 行政計画で位置づけている
 - 多様な主体の連携のもとで実施している
 - 地域密着型イベントを定期的に続けている
 - 公共交通を使った“暮らし”の提案(交通に特化していない)
-

エコモビ活動のはじめ方

始め方のいくつかのパターン

1. 小さく始めてみる

2. 地域環境が変わるタイミングがある

3. プロジェクトにのってみる

A. 出前講座がある

1. 小さく始めてみる

□ 使える地図がある

■ 役所で入手できる地図を調べてみる

□ 役に立つ、面白い地図(公園・史跡、観光、福祉など)

□ 公共交通での行き方がのっている

□ アンケート調査がある

■ 業務内容にアンケート調査

■ 市制モニターアンケート

■ パーソントリップ調査がある

2. 地域環境が変わるタイミングがある

- 新しい交通手段ができる
 - コミュニティバスが走り出す
 - 龍ヶ崎
 - 新しい路線が開通する
 - 成田EX, 尼崎21世紀の森他

 - 新しい開発がある
 - 新しい宅地開発がある
 - 彩都他
 - 新しい工場が誘致される
 - 尼崎21世紀の森他
 - 新しいショッピングセンターができる
 - 枚方他
-

A. 出前授業がある

- 自治体が学校教育に関与する3つの進め型
 - 出前講座型
 - つて型
 - プロジェクト型

 - 学校現場での円滑なコミュニケーションのために
 - 現場に入る前に
 - 先生との初対面の時に
-

エコモビ活動の育て方の留意点

1. 行政計画に位置づける
 2. プロジェクトをとる
 3. 効果を計測する、集計的な効果を出す
 4. 担い手を育てる
-

1. 行政計画に位置づける

□ 交通基本計画、推進プランを策定する

■ 京都府

- 平成17年度 国土交通省環境行動計画モデル事業に選定
- 平成17年3月 「京都府交通需要マネジメント施策基本計画」
- 平成18年3月 「京都府交通需要マネジメント施策推進プラン」
- 平成 ESTモデル事業に選定
- 平成20年度～ 低炭素モデル事業に選定

□ 地域公共交通活性化・再生総合事業

- 多様な事業をメニューとしてパッケージで一括支援
 - 地域公共交通総合連携計画の策定を支援
 - 地域の実情に応じた支援の実現(3年)
 - 総合事業を毎年度、事業評価
-

地域公共交通総合連携計画の視点

- 目標設定
 - 地域の現状把握
 - 地域ビジョン・まちづくりとの整合性
 - 問題把握
 - 公共交通と関連づけた定量的な地域の問題把握
 - 目指す公共交通サービスの内容と水準
 - 計画策定
 - 住民とのコミュニケーション
 - 交通事業者とのコミュニケーション
 - 評価・分析
 - 具体的な評価指標
 - 見直し基準の設定
 - 交通事業の継続性の見込み
-

2. プロジェクトをとる

□ プロジェクトの成果

- 質のよいマテリアルを作成できる
 - 大規模に実施することができる
 - 多くの主体が関与することができる
-

3. 効果を計測する、集計的な効果を出す

□ 実施地区を絞る

- 大規模事業所が集積している
- ボトルネックポイントが明確
 - 京都府宇治地区他

□ 交通事業者と連携する

- わかりやすいバスサービス
 - 大分市
-

4. 担い手を育てる

- 役所内の人材発掘、他の部署との連携

 - 地域NPO、地域団体との連携
 - 交通をテーマにしている団体だけに絞らない(子育て、安全、防犯、食育など)

 - 学習と実践をバランスよく
 - 働いてもらう(口だけは役立たず)
-

今日のまとめ

- 交通（クルマ）の問題は社会的ジレンマ
 - わかっちゃいるけどやめられない
 - 社会的ジレンマを乗り越えるアプローチ
 - モビリティ・マネジメントなど
 - エコモビ活動のはじめ方・育て方
 - きっかけの増加
 - MMと他の分野との接点の広がり
-